

1 防災教育 本校研究主題

防災教育でつながる学校・家庭・地域の輪
～生徒と共に学び、Well-being を実感できるさいたま STEAMS 教育～

※① 市教委研究委嘱「防災教育×STEAMS 教育」令和7年度研究発表（令和6年度から2ヶ年）

※② 市教委研究協力校「児童生徒のエージェンシーをはぐくむコミュニティ・スクール」
 令和7年度シンポジウム発表（令和6年度から2ヶ年）

※③さいたま市学校保健会研究指定（令和7年度）

2 本校の実態・研究の実績

(1) 研究主題設定の理由

本校は土地の高さが低く、近隣を流れる荒川が氾濫したことを想定すると大きな被害に遭う可能性がある地域である。しかし、我々教職員や生徒はその実感をあまりもてないため、通常の防災教育における避難訓練等の実施で終わってしまっていることが課題の一つである。そこで、本校の総合的な学習の時間において毎年1年生が防災教育を学ぶことを学校全体で活用し、他地域の防災実践を自分達の地域の防災へとつなげられるような取り組みが必要であると考えた。

そのため、令和6年度はSTEAM TIME において、災害支援ナースによる講演会、住宅メーカー等の企業や専門学科をもつ高等学校による出前授業等の企画を予定している。被災地での体験をご講演いただいて災害への知識を得ることや「災害に強いまちづくり」のためにはどのような構造の環境や建築のデザインが必要なのかを知ること等、実体験を伴ったSTEAMS 教育を実践したいと考えている。また、生徒が防災に関する自身の興味関心をもとに、学習内容や学習手段を選択できる場を提供し、Well-being（良い状態・幸福感）を実感できる防災教育を展開したい。

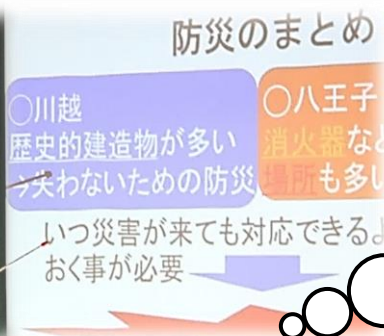
以上の取り組みを PTA や学校運営協議会の方々にも参観していただくことによって、生徒や教職員だけでなく、防災意識の輪が学校から家庭・地域にまで広がっていくことを願い、研究主題を設定した。

《研究イメージ》



(2) 令和5年度1学年の取組み（3学期）

川越への校外学習を実施した際、川越ではどのような災害対策がされているかを調査し、その後八王子地区のフィールドワークを実施して二つの地域の防災に関する比較を行った。その調査の中で、川越では整備されているが八王子地区では整っていない防災ポイントを見つけたり、八王子中学校の災害に対する弱さを発見して自分たちが取り組まなければならないことを考察したりと、今後の自分たちの生活をより充実させるために防災への意識を高めることができた。



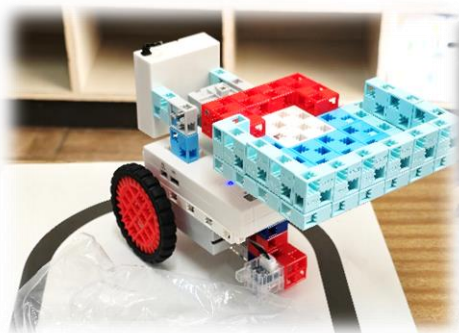
「私達の防災」というテーマで、グループでの探求的な学習を行い、PowerPoint と防災マップにまとめ、クラス発表と学年発表を実施した。
 ※R6.3.25 学年集会

(3) 令和6年度2学年の取組み（1学期・3学期）

STEAMS TIME において防災に関する生徒自身の興味関心をもとに SDGs の視点を取り入れた学習や、昨年度のプログラミング教育「生活を豊かにする未来プロジェクト」を課題解決手段の1つとし、まとめ・表現に関する学習方法を選択できる場を提供して、未来社会をリードする人材を育成することを目指した学習を行った。自分たちの生活だけに留まらず、身近な地域の暮らしをよりよくするために、今後も自分たちには何ができるかを考え、生徒の自己実現を目指していきたい。

各班で研究テーマを設定し、ハザードマップや模型、紙芝居や実演等を交えてクラス発表と学年発表を実施した。

※R6.5.22 市教委指導訪問



物資や人を運搬するためにデザインした災害支援カーをプログラミングし、地図上を走行させる取組み。

※R7.1.8 プログラミング学習の発表会

(4) 「八王子中学校『避難所運営訓練』」の参加（令和6年1学期）

中央区役所職員や消防団職員、地域にお住まいの方々や PTA と共に本校の生徒が救護班・食糧班・物資班・環境班等に分かれ、この地域に災害が起こり、本校が避難場所になったことを想定して運営訓練を実施した。訓練では、段ボールベッドやエアーマットの組み立て・世帯ごとの区画を示すテントの設置・トイレ後の凝固剤体験・防災倉庫や給水場所の確認等を行い、実際に本校が避難場所になった際、大人だけではなく本校生徒のような子ども達でも避難場所を運営することができることを確認することができた。行政の職員や地域の方々と連携し、自分や大切な人達を守るために自助・共助・公助を体験できる有意義な取組みであった。



(5) 令和6年度3学年の取組み（3学期）

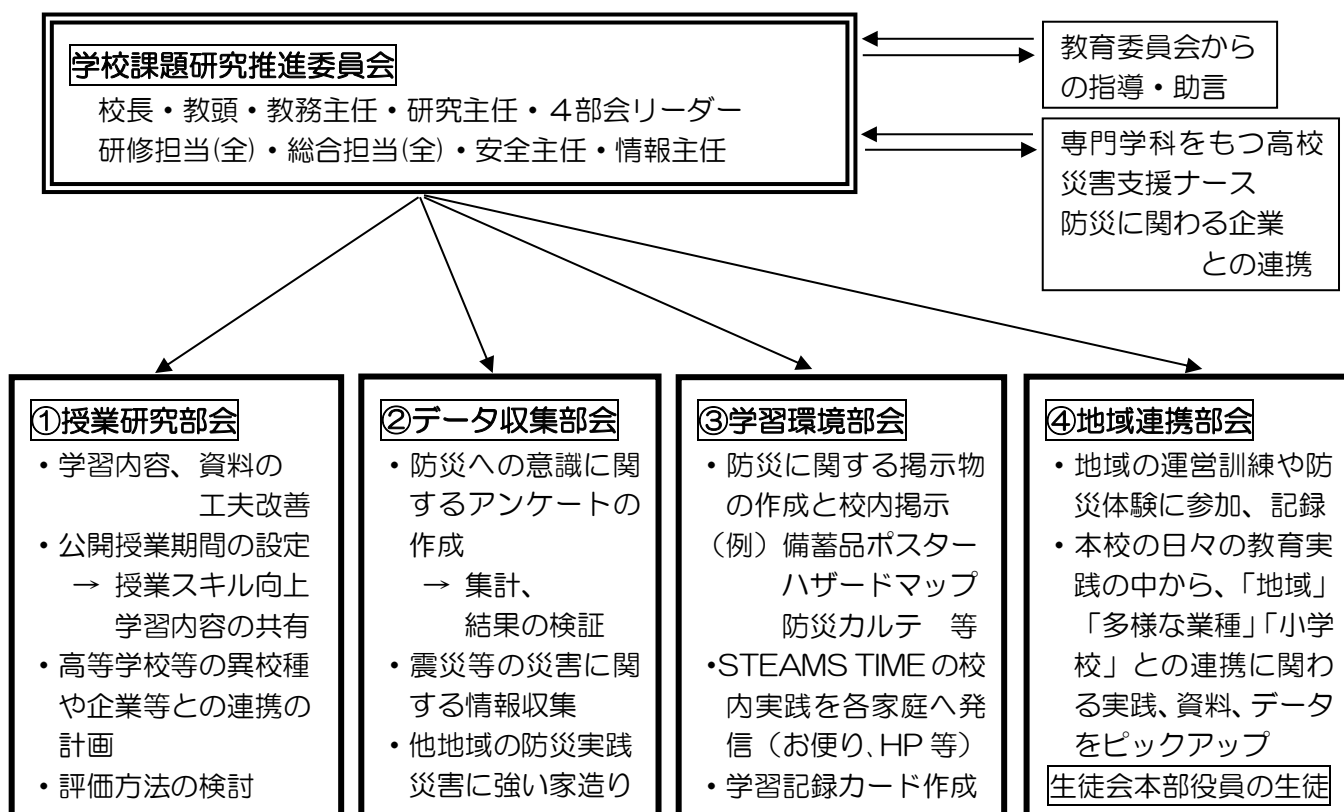
STEAMS TIME において、教育版マインクラフトを活用し、「災害に強いまちづくり」のアイデアをグループで出し合い、家等のモデルを作成して一つの「まち」をデザインする発表会を実施した。

地域で荒川が氾濫して水害が起きたことを想定し、我々の命や生活を守るために、有事の際に敷地の地下に水を流し込む構造の家をデザインする等、設定された課題の解決に向けて、自分たちの未来をより良いものにするために、想像力豊かに探求することができた。



3 本校の研究計画

(1) 研究体制組織図



研究部会	教職員メンバー（案）		◎…リーダー	（敬称略）	
①授業研究部会	◎木村 町田	◎山口 片柳	加藤	岡本	（佐藤貢）
②データ収集部会	◎桐島 嘉藤	◎渋谷 三浦			
③学習環境部会	◎櫻庭 小島	◎黒田鈴 黒田祥	及川	佐藤な	内川 落合
④地域連携部会	◎酒井 鈴木	◎畑崎 五十嵐	釘田	青山	（佐藤貢）

「エージェンシー」

* 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力

（定義：OECD「教育とスキルの未来 2030 プロジェクト」）

⇒ 社会参画を通じて、子ども達が主体的により良い社会を創造すること。

(2) 研究実績と今後の研究計画

《令和6年度2・3学期》

※主に、1・2年生（緑・青学年）で研究を推進する。

- ①本校独自の「防災アンケート」を作成・実施し、保護者・生徒・教職員の三者に共通、もしくは相違する「防災に関する価値観」の実態を把握する。

⇒「防災アンケート」の結果から本校の「防災教育重点目標」を定める。

- ②東日本大震災や能登半島地震に派遣された災害支援ナースによる講演会（未来くる先生講演会を兼ねる）を企画し、「災害に強いまちづくり」の重要性を認識する。

●8/30(金)朝、「シェイクアウト訓練」の実施

⇒ 1校時(9:00～9:50)「災害支援ナース講演会」 ※「夢工房 未来くる先生」と兼ねて
講師：川口市立看護専門学校教諭 田口 多美子 様

内容：能登半島沖地震に派遣されたこと・街の減災ナースとして活動することの体験談
支援の物資やバッグ等の背負い込み体験 (保護者・地域の方の参観)
本校は地震が起きた際、どの程度耐えられるのかのご講義

●9/2(月)給食、「防災献立」の提供

生徒による配膳時、アルファ米の炊き込みご飯をパックに盛り付け、避難時と同様の箸を使用する。炊き出し豚汁と災害ビスケットも配膳される。

- ③工業科・建築科をもつ市内の高等学校に「災害に強いまちづくり」に関わる講演会や出前授業をしていただき、実社会や実生活との関わりのある学びを得る。

生徒が自身の興味関心から学習内容や学習手段を選択することができるよう展開する。

⇒ STEAMS TIME を活用した1・2年生における「災害に強いまちづくり」の理論の学習。

●10/8(火) 埼玉県立大宮工業高校建築科による出前授業（ご講義）の実施

講師：埼玉県立大宮工業高校 建築科教諭 片桐 健一 様
内容：「災害（地震）に強いまちづくり」に関するご講義
対象：全学年

●11/19(火) 「NHK アナウンサーと考える防災教室」の実施

講師：NHK アナウンサー 狩野 史長 様
内容：「災害の事例と想定される被害」に関するご講義
「災害報道における『呼びかけ』の事例や実際の訓練」に関するワークショップ
対象：1・2学年

●2/14(金) 埼玉県立いずみ高校環境建設科による出前授業の実施

講師：埼玉県立いずみ高校 環境建設科教諭 浅野 文(あや) 様
内容：「災害（水害）に強いまちづくり」に関するご講義
対象：全学年

- ④市立与野西北小学校の合同避難訓練を実施し、実生活における防災への意識を向上させる。

- ⑤今年度学習した災害（地震・水害）に関する知識や防災方法をまとめ、1年生では校外学習で訪れた地域の防災を調査し、八王子地区の防災と比較して発表を行う。2年生では、「災害に強いまちづくり」に関する課題意識や生徒自身のアイディアをまとめる。

※理科（地震分野）・社会（地理分野）との連携

生徒が Well-being を実感できる

《令和7年度1学期》

※主に、2・3年生（緑・青学年）で研究を推進し、研究発表を行う。

シンポジウムでのプレゼンを行う。

- ①令和6年度同様の「防災アンケート」を実施し、その変容を分析して評価する。
アンケート結果から本校の「防災教育重点目標」を見直す。
- ②前年度に得た、防災への知識・理論から、「災害に強いまち」を設計・デザインする。
生徒が自身の興味関心から学習内容や学習手段を選択することができるよう展開する。
（手書き・立体模型・教育版 MINE CRAFT・Word・PowerPoint・Canva 等）
⇒ クラス発表を行い、アドバイスをし合う。
- ③大宮工業高校・いずみ高校・さいたま市防災課等と連携して「災害に強いまちづくり」に関する助言・情報提供をいただく。（予定が立てば）
⇒ 2年生・3年生（緑・青学年）
：教育版 MINE CRAFT 等の上記手段を用いて生徒が「災害に強いまち」を作成する。
1年生（赤学年）
：八王子地区のフィールドワークを行い、防災ポイントを調査してまとめる。

《令和7年度2学期》

- ④さいたま市総合防災訓練へ参加する。
●9/1(月)午前中：荒川総合グラウンド
- ⑤STEAMS TIME を活用し、教育版 MINE CRAFT 等の上記手段を用いて生徒が「災害に強いまち」を作成する。
「災害に強いまちづくり」のクラス発表、学年発表に向けて探求的な学びを継続する。
⇒ 班ごとにプレゼンテーションを行い、クラス発表を実施し、クラスチャンプを決定する。
各クラスの代表4班による、学年発表を実施し、学年チャンプを決める。
生徒が Well-being を実感できる
- ⑥全校集会で緑学年・青学年の各チャンプによる、「災害に強いまちづくり」のプレゼンテーションを実施し、企業や地域（行政）に対して本校の「災害に強いまちづくり」を提案する。
⇒ 学校チャンプを決め、生徒の Well-being をさらに向上させる。
プレゼンテーションは連携を図れた企業や高等学校、学校運営協議会委員の方々に審査していただく。
「防災教育でつながる学校・家庭・地域の輪」が広がる

*ここを「防災教育」研究発表当日にあてる計画。（10/28(火)）

2・3学年フロア全体で「災害に強いまちづくり」全校発表会を開催し、連携した学校運営協議会やPTAの方、市内の先生方にも本校の研究発表の場として、その全校発表会を参観していただく。

→ 体育館 or 1F 多目的ホールにて研究発表全体会を実施する。

*「エージェンシー×コミュニティ・スクール」の研究協力校としてシンポジウムでは、本校の防災教育で実践した地域連携に関する取組みを中心に、生徒がさいたま市に向けてプレゼンを行う。（R 8. 1月を予定）

《令和8年度（案）》

- ①前年度、学年チャンプになった本校3年生の生徒（緑学年）を市立与野西北小学校に派遣し、STEAMS TIME の一環として小学生にプレゼンを行い、防災への意識を向上してもらう。

